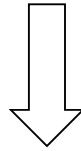


人為的な介入ができるようになると、優良(と考えられている)形質のみが追い求められる



多様性は消失？

過去の優生政策からの教訓

『民族の花園を荒す雑草は断種手術によって根こそぎに刈取り、日本民族永遠の繁栄を期さねばならぬ』

悪血の泉を断つて
護る民族の花園

研究三年、各國の長をとつた
断種法愈よ議會へ

讀賣新聞

（神戸大学電子図書館システム）

實現するか断種法

民族血の浄化へ

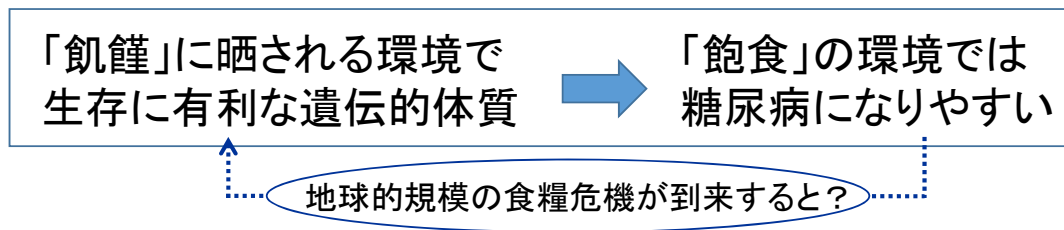
各國の立法例と方法

讀賣新聞

『反対論もあるが、それは断種の基礎になっている遺伝学の高度の進歩発達を理解しない無智な議論だ』

- ・ 当時の医学界や法曹界の重鎮、政治家らによる「合議」で策定
- ・ 先行する諸外国(米国、ドイツなど)の動向に追随

- ・ ある遺伝子型がその個体にとって有利か不利かは環境によって異なる



- ・ 遺伝的多様性の保持は、人類の未来にとって重要
ヒトゲノムには人類の進化の歴史が刻まれている
- ・ その時代の「医学的常識」や「専門家の見識」が正しいとは限らない

人類の未来を変える生殖細胞のゲノム編集を
安易に実施すべきではない